

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成20年9月2日

【評価実施概要】

事業所番号	4078700194
法人名	社会福祉法人 竹里会
事業所名	グループホーム あぜ道
所在地 (電話番号)	福岡県みやま市瀬高町大江2289番地1 (電話) 0944-62-6888
評価機関名	社団法人 福岡県介護福祉士会
所在地	福岡市博多区博多駅前中央街7-1シック博多駅前ビル5F
訪問調査日	平成20年7月25日

【情報提供票より】(平成20年7月7日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年 2月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人

(2) 建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	<input checked="" type="radio"/> 無 <input type="radio"/>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="radio"/> 有(100,000 円) <input type="radio"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

(4) 利用者の概要(平成20年7月7日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88.7 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山内医院(内科・一般診療)、ヨコクラ病院(総合)
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは広々とした水田や畑に囲まれた住宅地の中に立地し、芝生の中庭のある木造平屋造りのゆったりした建物である。特養を法人母体とするホームであり、地域との交流を大切にとの考えから法人とは離れて関連の老人保健施設と並んで建っている。職員数も多く、利用者の一人ひとりの思いや生活習慣を大切に、季節行事や外出の機会を多く取り入れ、利用者に学びながら一緒に行事を楽しんでいる。また、生活の場面の随所に利用者の経験や知恵を活かしている。職員は法人内の各種委員会活動に参加し、それぞれに課題目標を持ってサービス向上に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価の結果は運営推進会議で報告し、職員ミーティングで発表して全員で改善に取り組んだ。また、評価の結果を家族にも見ていただけるように、玄関の目に付く所に備え付けている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は職員ミーティングで項目ごとに話し合い、管理者がとりまとめを行い作成した。全員が作成に関わることで日常ケアの見直しや気づきにつながり、サービス向上に活かされている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>地域の民生委員、介護相談員、市役所職員、利用者と家族、職員が参加して2ヶ月に1度定期的に開催している。外部評価の結果や日頃の暮らしぶり、行事予定等を報告し意見やアドバイスをいただいている。また、避難訓練時の参加も呼びかけている。茶話会を催してざっくばらんな話が聞けるように配慮し、出された意見は職員みんなで検討してサービスの向上に活かしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)</p> <p>毎月ホーム便りを発行して家族の面会時に渡したり郵送したりしている。面会時には利用者の状況報告を行い、意見や要望を聞き取っている。玄関に意見箱を設置したり、公的苦情相談窓口や外部の有識者をお願いしている第三者委員への相談窓口等を伝えている。また、アンケートを実施しサービス改善に取り組み、集計や改善結果を玄関に掲示しており家族参加の行事の茶話会等でも意見や要望を聞いている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時の近所の方の挨拶や食材の買物でのふれ合いを初め、地域の催し物や祭り、小学校の運動会などへ出かけ、地域の人々と交流している。年2回の地域の清掃活動にも、職員と共に参加している。</p>

2. 調査結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人共通の理念もあるが、職員皆で話し合っ作り上げた「利用者の気持ちや生活習慣を大切に思いやりの心で接し、家族、地域、職員とのつながりや信頼関係を大事にする」という分かりやすい事業所独自の理念を掲げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関やフロアの目に付くところに掲示し、月2回の職員ミーティングで唱和して意識付けしている。理念は、日常のサービス提供の中で疑問や迷いを感じた時に立ち返るケアの原点としている。		
2. あ地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時の近所の方との挨拶や食材の買い物時のふれ合いを初め、地域の催し物やお祭り、小学校の運動会などへ出かけ地域の人々と交流している。年2回の地域の清掃活動にも職員と共に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は職員会議で項目毎に話し合っ作成し、職員全員で取り組むことで、気づきやサービスの向上に活かしている。前回の評価は職員会議で発表して改善に取り組み、運営推進会議でも報告し、家族にも見ていただけるよう玄関に備え付けている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、介護相談員、市役所職員、利用者と家族、職員が参加して2ヶ月に1回開催されている。外部評価の結果や日頃の暮らしぶりや行事予定等を報告したり、避難訓練への参加も呼び掛けている。また、いただいた意見は事業所の運営やサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	現在は運営推進会議や介護相談員との情報交換だけで、介護保険の申請等で市役所に出向くことはあっても積極的な連携はとられていない。	○	他の同業者との連絡会づくりを始めており、行政の情報提供や協力が得られるよう、積極的な働きかけが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在は制度の必要な方はいないが、いつでも対応できるように職員ミーティングで学習を行っている。家族にも制度の概要を伝え、玄関にパンフレットを備え付けている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月ホーム便りを発行し、家族に手渡ししたり郵送したりしている。家族の面会時に利用者の状況報告を行ったり、緊急時には電話で連絡を行っている。また、日常生活や行事等の写真を収めた個人のアルバムを見てもらい、金銭出納帳に確認印をもらっている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置したり、公的苦情相談窓口や外部の有識者をお願いしている第三者委員への相談窓口等を伝えている。また、アンケートを実施して改善に取り組み、集計結果を玄関に掲示している。また家族が参加する行事の茶話会などで意見や要望を聞き取るようにしている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者は少ないが法人内異動がある。管理者は支障のないように引継ぎを行い、異動後も法人内の行事に行き来して関係の維持に努めている。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては年齢や性別にこだわらず、本人の気持ちややる気を優先している。職員の年齢も20～50歳台と幅広い。休みの交代も認められ、働きやすい職場環境づくりに努めている。		
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員は法人の全体会議で外部研修の報告を聞いて学習し、法人の理念や職員綱領を復唱し、利用者の尊厳について認識を深めている。管理者は利用者の思いが大切にされるように日常生活場面で職員の声掛けや態度を指導している。		
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で段階に応じた研修に参加し、全体会議で報告を行い学習している。新任職員には指導マニュアルを使用して育成にあたっている。また職員は各種の委員会に所属して活動を行い、人事考課システムでレベルに応じた課題目標を設定してトレーニングを行い、資質の向上を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内事業所との交流は委員会活動や行事を通じて盛んであるが、地域の同業者とは連携をとり始めた段階であり、具体的な交流は行っていない。</p>	○	<p>まず身近な便りの交換や夏祭りなど行事への参加により関わりを持ち、情報交換を行い行政の協力もお願いして、同業者の連絡会を設立することが期待される。</p>
<p>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に自宅などを訪問して本人や家族から話を聞き顔なじみになり、見学や体験入居をしてもらっている。また、入居時に家族や本人から生活歴や生活習慣を聞き取り、本人の思いに沿い徐々にホームの生活に馴染めるように工夫している。</p>		
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>					
16	29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>季節の行事や料理、漬物や加工食品づくり、畑の作物の育て方などの生活の知恵を利用者に学びながら、職員も利用者と共に楽しんでいる。</p>		
<p>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
17	35	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用開始時に本人や家族などから思いや生活歴等の情報を得るとともに、日々の暮らしの中での会話や行動、表情、状態等の観察を行い、職員の気づきや家族等の協力を得て本人の思いや意向の把握に努めている。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
18	38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の担当職員が家族が面会時に意見等を聴き、他の職員の気づきや関係者からの情報提供を基に素案を作成している。職員会議で課題等の検討を行い本人や家族の思いや意向が反映された介護計画書を作成している。</p>		
19	39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>モニタリングシートを活用し3ヶ月ごとに評価、見直しが行なわれているが、状態変化時はその日の出勤職員での話し合いやケアの変更に留まっており、現状にあった介護計画の作成については確認できなかった。</p>	○	<p>利用者や家族等から意見や要望を伺うとともに、月に1回程度の見直し会議を行い、現場職員の気づきや意見を採り入れた利用者の現状に即した介護計画の作成が望まれる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入院時の見舞い、受診、馴染みの場所や自宅への送迎、家族の宿泊や食事の提供、通所介護等、利用者や家族の要望に応じて柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医への受診を支援している。家族や職員が同行し受診結果の情報を共有している。隣接する協力医療機関との連携を図り、24時間適切な医療が受けられるよう体制が整えられている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に本人や家族等に事業所が対応しうる最大の支援方法を説明している。また終末ケアを行ってはないが、重度化した場合は本人や家族の意向を尊重し、家族、医療機関、職員等と繰り返し話し合いの場を持ち方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	訪室時の挨拶や利用者への話しかけは穏やかな表情でやさしい言葉かけや対応が見られた。記録等の個人情報事務室で保管、管理されている。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	天候や体調に配慮しながら散歩や買い物に出かけたり、起床から、食事や入浴時間、就寝まで全てにおいて利用者一人ひとりのペースに沿った、心地よい過ごし方を支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食材の買い物から、切り込み、盛り付け、配膳、下げ膳、食器拭きにいたるまで利用者と職員と一緒にやっている。利用者と職員は同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら同じ物を食べている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の体調と希望を確認して入浴を支援している。毎日夜8時まで希望する時間に入浴を楽しめる。入浴を拒む場合は無理強いせず、タイミングを見て別の職員が声をかける等の工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の食材の買い物や食事づくり、保存食づくり、洗濯物たたみなどの日常生活での出番や野菜作りや工作等の趣味や特技を活かし、利用者の安心や自信につながるよう気晴らしの支援を行っている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、手作りのお弁当を持って四季折々の花見、地域行事へ参加し、天候や利用者の希望や体調に配慮しながら心身の活性化につながるよう日常的に外出する機会を設けている。遠出の外出には家族にも参加を呼びかけ、一緒に楽しんでいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはやさしい音色のチャイムを設置し、昼間は施錠していない。利用者の外出気配を察知したら後ろから付き添い、安全面に配慮しながら自由な暮らしを支援している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の組織図と手順書を作成し、年2回、昼夜を想定した避難訓練を行っている。隣接する他施設や地域との協力体制が築かれており、非常用物品も備蓄されている。9月には消防署の協力のもとでの訓練を予定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を個別に記録しており、毎月体重測定を行い健康管理を行っている。水分摂取は利用者の好みに応じて数種類の飲み物を準備している。医療機関や管理栄養士から定期的にアドバイスを受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	芝生の中庭を居室が取り巻く回廊づくりで、廊下には畳の長いが置かれ、共用空間には畳の間が設けられている。利用者により野菜や稲が植えられ、季節感と成長を楽しんでいる。利用者がその時々に合わせて、思い思いに好みの場所で居心地よく過ごせるよう工夫している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>利用者の好みに応じて畳敷きとフローリングの居室があり、思いのこもった物品や馴染みの生活用品を持ち込み、自宅の居室と同じになるよう本人や家族と相談して配置し、落ち着いて過せるよう工夫している。</p>		